

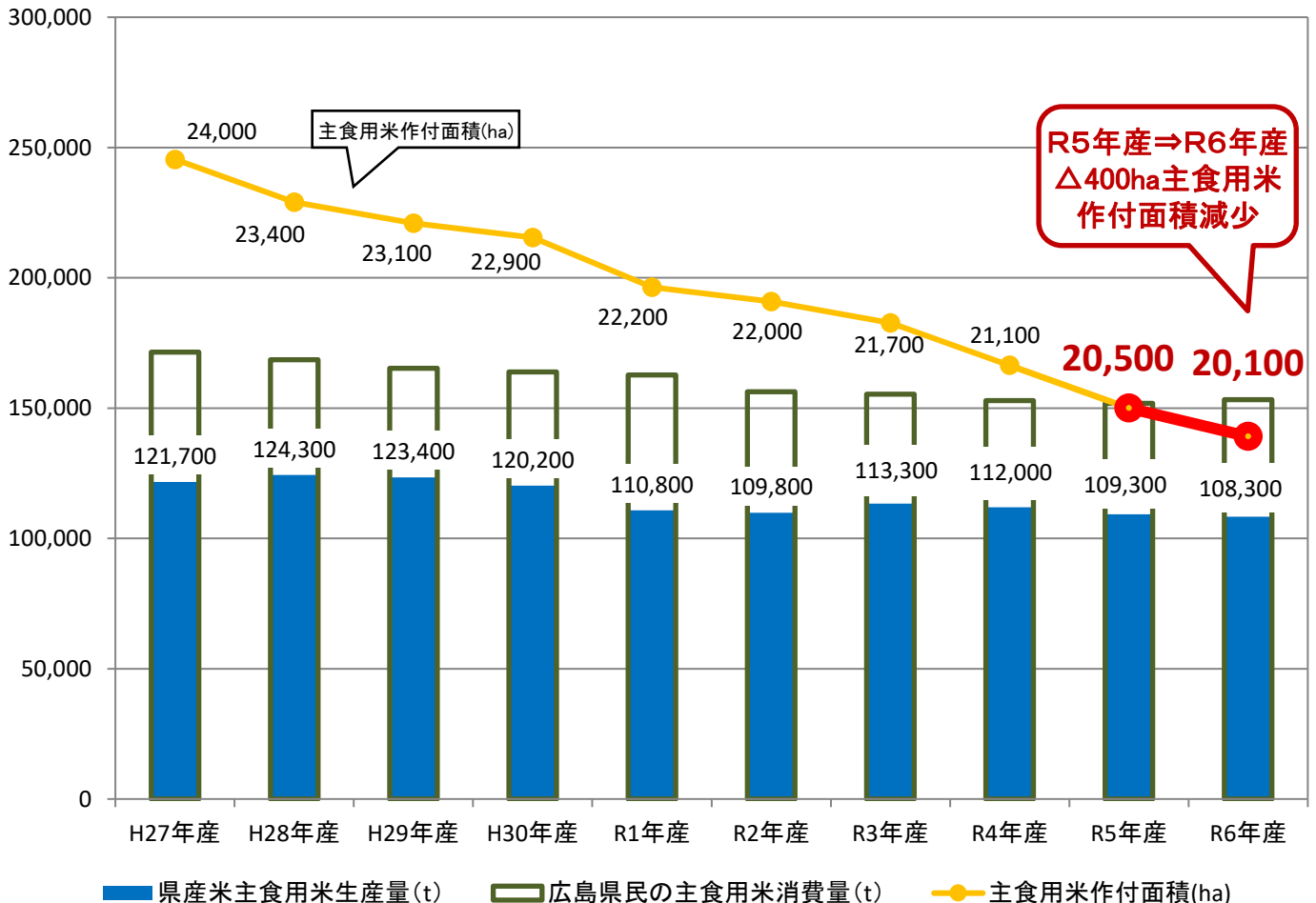
広島県主食用米・非主食用米の生産及び需要動向 (令和6年11月14日現在)

広島県農業再生協議会では、平成30年産からの米政策見直し後も、需要に応じた生産を行うための取組のひとつとして、広島県内の水稻の生産状況や令和7年産の需要動向をまとめています。

- 県内の主食用米作付面積は年々減少しており、令和6年産は令和5年産に対して▲400haと引き続き大幅に減少しました。県産米の生産量は県民の米の消費量を下回った状況が続いています。
- 令和6年産は、全国的な需要増により、**県内産の流出と県外産の流入が発生しており、一部の県内需要が県外産に置き換わっています。**

県民の主食用米消費量と県産主食用米生産量及び作付面積の年次別推移

(単位:t)

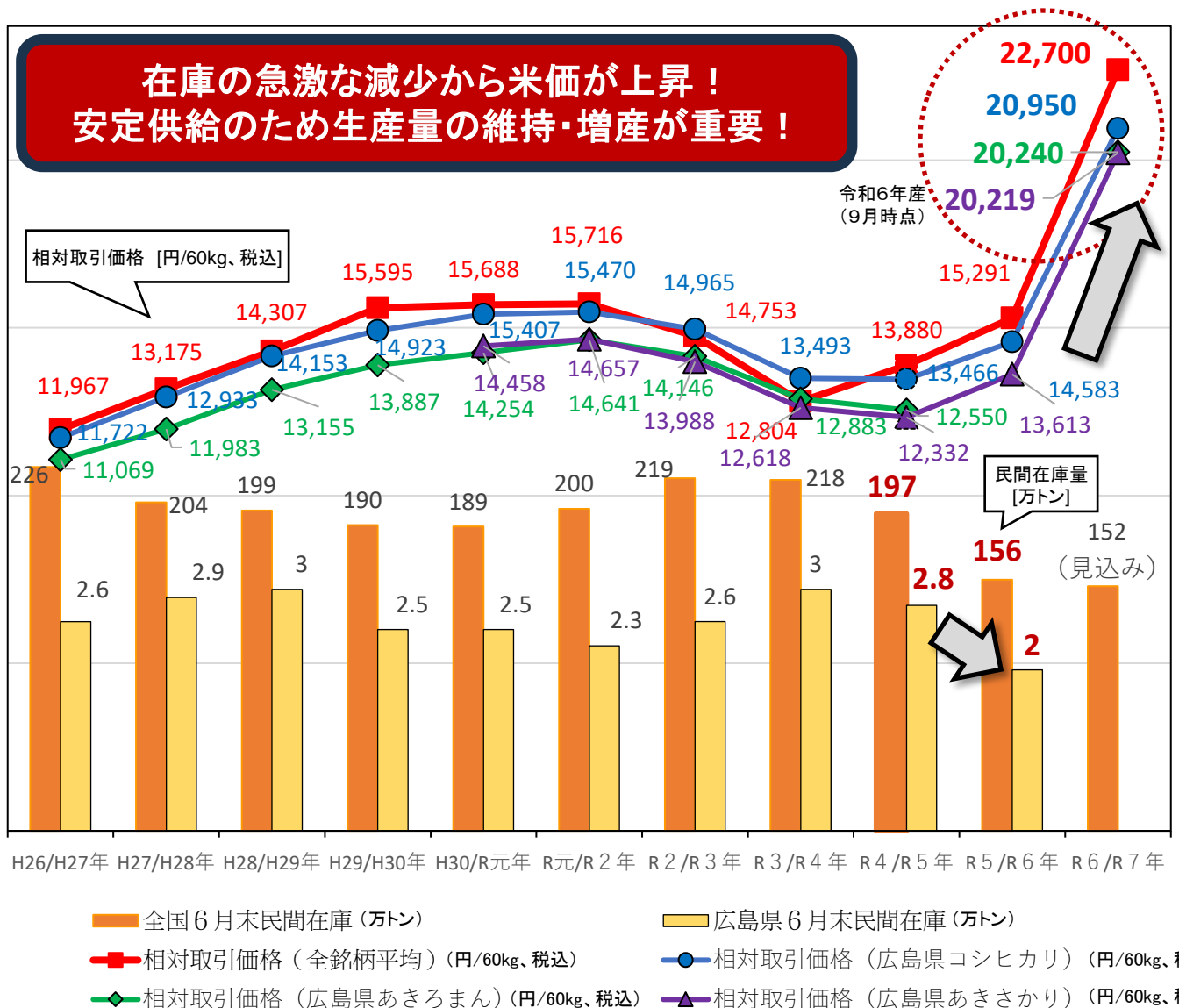


出典 県産主食用米生産量及び作付面積：農林水産省作物統計調査

県民の主食用米消費量：農林水産省公表の1人当たりの米消費量に広島県公表の広島県推計人口を乗じて算出(推計値)

年産別相対取引価格と民間在庫の推移

- 令和5年産米については、アフターコロナによる堅調な需要増に加え、8月の南海トラフ地震臨時情報や地震、台風等による買い込みから在庫が急激に減少したことから、**令和6年産の民間在庫量は、前年産と比較して全国で約41万t、県内では約0.8万tの減少**となりました。
- 令和6年産(9月時点)の価格については、全国的な上昇を引き継いで取引が始まっており、**全銘柄平均及び広島県産米相対取引価格(円/60kg)**が前年比で約7,000円高くなっています。
- 令和7年産の主食用米については、**県民の主食用米消費量に対して安定的に供給するため、生産面積の維持と拡大が求められています。**



出典：農林水産省「米の相対取引価格(通年平均)」 「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」
 ※価格は出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格(運賃・包装代・消費税を含む1等米価格)の加重平均したもの。ただし、広島県の各銘柄の価格には全農契約分の運賃は含まれていない。

米の銘柄(品種)別検査数量の年次推移と令和7年産主食用米需要動向

○**令和7年産主食用米の需要動向は、業者の在庫状況や品種により異なりますが、家庭用及び業務用ともに需要の増加が見込まれます。**令和7年産の生産計画を立てるに当たっては、販売先の品種ごとのニーズを把握することが重要になっています。

品種名	検査数量(t)					令和7年産		栽培適地
	令和元年産	令和2年産	令和3年産	令和4年産	令和5年産	トレンド	需要動向	
コシヒカリ	23,016	22,849	22,992	22,637	21,704	↗	主に家庭用として一定の需要が定着している。	標高550m以下
恋の予感	1,949	1,283	1,848	1,554	1,698	↗	地域性のある品種として主に家庭用需要の増加を見込む。	県南部 (標高150m以下)
あきろまん	4,077	3,773	4,549	4,146	3,487	↗	広島県独自銘柄として知名度があり、需要が定着している。主に家庭用需要の増が見込まれる。	県中北部 (標高150～350m)
ひとめぼれ	2,759	2,895	2,856	2,407	2,809	↗	全国銘柄として家庭用・業務用ともに需要はある。	県北部・高冷地 (標高300～550m)
あきたこまち	1,674	1,581	1,687	1,547	1,363	↗	全国銘柄として家庭用・業務用ともに需要はある。需要動向は事業者の在庫状況によって異なる。	県北部・高冷地 (標高400m以上)
あきさかり	10,229	11,403	11,784	10,609	9,818	⇒	家庭用・業務用ともに需要はある。需要動向は事業者の在庫状況によって異なる。	県中北部 (標高150～500m)
ヒノヒカリ	1,391	983	1,706	1,905	1,477	↘	全国銘柄として一定の需要はあるものの、高温障害による品質低下や作付減少による需要減少を見込む。	県南部 (標高200m以下)
計						↗	家庭用、業務用とも、主食用米の広島県産米の需要は増加が見込まれる。	

出典：R元～R5検査数量：農林水産省『米穀の農産物検査』（令和5年産は、令和6年3月31日現在の速報値）
 令和7年産仕向け別動向：県内米取扱事業者への調査を参考に作成（令和6年10月県再生協調べ）
 令和7年産トレンド
 ↗・・・調査対象者のR6対比需要量・需要動向から需要増が想定される。
 ↘・・・調査対象者のR6対比需要量・需要動向から需要減が想定される。
 ⇒・・・調査対象者のR6対比需要量・需要動向からR6年産並みの需要が想定される。
 ⇒～・・・調査対象者のR6対比需要量・需要動向に幅があり、R6年産と同程度から需要増が想定される。

令和7年産は県内の主要な主食用米取扱事業者(4社)への調査を基に現時点の大まかな傾向を掲載しています。営農計画を作成する際は取引先等に必要な銘柄・需要量をご相談ください。

広島県産非主食用米の生産量推移と令和7年産需要動向

○令和7年産非主食用米の需要動向のうち、WCS用稲は県内国産飼料の安定的な確保に向けて、前年並みの需要が想定されます。

○令和7年産非主食用米の需要動向は、業者の在庫状況等により異なりますが、**需要の増加が見込まれます。**令和7年産の生産計画を立てるに当たっては、販売先のニーズを把握しつつ主食用米とのバランスを図ることが重要になっています。

用途	生産量(t) (WCS用稲:ha)					令和7年産	
	令和2年産	令和3年産	令和4年産	令和5年産	令和6年産	トレンド	需要動向
W C S 用 稲	549	585	614	708	740	⇒	県内向け国産飼料の安定的な確保に向け、前年並みの需要が想定される。
飼 料 用 米	1,568	2,272	2,780	2,373	1,905	↗	県内養鶏業者を中心とした需要増加を見込む。
加 工 用 米	1,926	1,697	1,860	1,865	1,900	⇒	県内酒造会社を中心とした需要は前年同規模を見込む。
米 粉 用 米	661	659	690	520	502	⇒	需要は販売先により異なる。
計 (WCS除く)	4,155	4,628	5,330	4,758	4,307	↗	需要は増加が見込まれる。

出典：R2～R6生産量：農林水産省『加工用米の取組計画認定状況』『新規需要米の取組計画認定状況』（需給調整カウントとなる加工用米・新規需要米の取組として認定を受けた数量（面積））

令和7年産仕向け別動向：県内非主食用米取扱事業者への調査を参考に作成（令和6年10月県再生協調会）

R7年産トレンド ↗・・・調査対象者のR6対比需要量・需要動向から需要増が想定される。

⇒・・・調査対象者のR6対比需要量・需要動向からR6年産並みの需要が想定される。

令和7年産は県域で非主食用米取扱のある事業者への調査を基に大まかな傾向を掲載しています。営農計画を作成する際は取引先等に必要な銘柄・需要量をご相談ください。

作成：広島県農業再生協議会（HP：<http://www.h-suiden.jp/>）

《問い合わせ先》広島県（広島市中区基町10-52 農業経営発展課 電話082-513-3557）